

反戰會議通信

No. 10
'68.11.15

東京教育大學 反戰公議

全学斗の確立を通じて
全学完全封鎖を準備せよ

書を読むのが何よりの樂である。もう一ト参考書の
事は、図書と併用しなければならぬ。我々の又
は、オホカの長期化、全学化として本館占拠とい
ふる事は、もやや事態和緩に効果をもめた大學上层
の意圖であつて、昨日の回答の中に明白に記載され

利用して再度、諒し合ひの基礎が復活され、ツイ
キヤンペス論しが承認されれば事足りるという立場
から、他学部、推進派と対別の思想から、二の大学
上层部のストレートする「懷柔、切り崩し策動」を採
用してゐる。

の代表と右学部代表が会見する」という、現在の斗争がまさに教育大の氣波移動——評議会決定をこそその出発点としているのだという実を全くインやイシ、たけ、正常な状態へして話し合いをしてという形で我々を標準化し、争を切り崩そうとするもののなかで設立された評議会と学生代表との会見、MP会の一時的能停止、学生との二者協議会の設置などをもつて、我々の斗々士を燃焼せしめようとしている。だが、我々はなんらものを望んでいたろうか。断じて否である。この争の終結を目指す「評議会と学生代表との会見」というような懷柔と切り崩しの策動に対しこそ、それが我々の「右学長評議会大衆団交実現」——六一〇决定自紙撤回——にとつて何らの幻想をも

青の大學民主化路線の重違は根柢を形成してゐる。専内共斗、教養団共斗という統一戦線の和癡を目標することによつて、我々の斗争を「教養団への奮闘、荒野しののワク内に立し」ととめることによつて、費革新社団がこの大學の一一般的規定区うち破り、在學國家权力に眞剣から討決しようとしている我々の斗争に敵対してくる日次^リ民青が更にその裏に立ちて大學の民主化が代々木の児童養成所へとおとしこめるものであると、いうことを計るばら、我々は彼らの斗争等に重複的服徴を与えていく大學上院部及び文教後因等の意圖を徹底的に斬碎する必要がある。それと並して、我々の戒列を強化し、我々の断手たる実力斗争によつて、社學長訴教団大衆団友一太一の決意白紙撤回をからとつて二二〇ではなむか。

ここで大衆団友実現へむけての我々の斗争の中に五つて昨日の社學長実力斗争をめぐる混亂について明確にしておこう。

て、さう一瞬の矛盾が、当局と学生の話し合いや、學生の大層迷惑ある「日本定期校への介入による」で前か後への糾口を招めるのがどうな奸徳をもつたり、その民主化を目指している諸君にとつては「成績」としての幻想を与えるだろうが、それに対して找^ト日、規律絶惡阻止の実現こそが、まさに学生の^ト大夢不能への介入であるといつてらう。

國に於いて最徹べれつゝある。すむれら文以外の取扱國にとつては、六、一〇決定は動かし難い既成事実であり、その上に立つてもの医考える彼らには、いかに事態を正常化するのかしといふ問題意識だけがある。一方、文教發展局、こうして各官部發展局の動向を考慮した上で六一〇決定不回しにすることによつて、結局、舊進派に対し、我々の斗争を

ところが、十四日对學長室行動を前にして発生した騒乱こそは、まさに我々の斗争が未だに學長をひき出さずには強くなつてゐることを最大の根柢としており、「學長の學内連れ込み」という傾向は、そうした痛苦な現実に逆規定されたあせりを根とした小ブル的、小児病的発想であると/orだらう。我々は、我々の斗争がようやく大學当局を動かし始めたと/ク側面と、未だに因應を実現しえてないといふ痛苦な現実と/or二側面をはつきり見なければならぬ。我々は前者の意義を確認し最大限に追求するものとして、また後者における我々の斗争の弱さを克服するものとして、「全學封鎖」を準備していく必要があるだらう。

E館・W館完全封鎖、圖書館封鎖、守衛所封鎖としての全學封鎖を我々がイメージとしこもつとき、全學ストへのステップとしてのE館完全封鎖が夏休み以前に既に東洋史クラスを中心として主張され、ほぼ確認されつつたにもかわらず、西洋史クラスを先頭にした反対派のまき返しによつて結局実現されなかつたといふことをはつきりと統括しこえねばならぬ。我々は斗争の基軸を又斗争の基本路線におき、その要領を目指し、全學化を図指すものとして全學斗の結成と、E館完全封鎖を主張した。そして二の主張が貫徹しなかつた最大の根柢は全學斗の未確立にあつたのだが、だがしかし、文斗争奪内部にありて我々の主張に反対することによつて全學封鎖へのアロセスを阻害していく補完物を充していいた諸君の主張は、形式民主主義的終戦以外の何ものでもなかつた。確みて、他學部の運動を牽制的に保証するものは他學部内部における反執行部勢力の強固な存在ではあるが、三才文學部内における日共民青が四學部自治会——至共團を後盾とすることによつてこの存在の保証を与えられていもよラに、他學部における我々の部隊は、文斗争奪の確固たる存在をその保証としている。したがつて、各學部斗争争奪の成長と文斗争奪路線の全學的要領の統一的に成し遂ぐる組織的保証これが全學斗の確立の意味なのである。

我々は全學斗を「連絡調整本部から全學的指導部へ」と/or文斗争奪の方針を全面的に支持し、それを文字じおり実現しこいかねばならぬ。このことを抜きにして「全學封鎖」を語ることは全くの空想であるし、小児病的極左技術でしかなし。

生乙の斗争学友諸君！ 本日の全學斗総会を成功させ全學封鎖への第一歩とせよ。
我々反戦公説は全學封鎖へ向けてその先頭になつて斗争へ抜くつもりである。